

2013 気の向くままにドライブ沖縄4(1)

「第1日目」**沖縄本島へ・そして北部のドライブ**

□*3/11 月 晴

□東日本大震災から満2年目となる今朝 ... 深夜放送はずうっと、その特別企画の放送が続いていて、それを聞きながらウトウトの未明、4時の目覚ましの音で起きる。

昨日までとは打って変わって、今朝はよく冷えている。



□私たちは、今

日から4日間の予定で、**沖縄本島のドライブに出掛ける**、そんな朝を迎えているのである。出発が早いため、朝食は空港でとることにしている。なので今朝は、出掛ける支度だけ ... 温かいお茶をいただいて、楽しみながら出掛ける準備をする 私たちの旅は、もうすでに始まっているんです。

あるTVの番組で□**空港は旅の通過点ではなく、旅の目的地のひとつ**」と言っています。

私たちの思いも同感で、**どんなにささやかであろうとも旅は「玄関から玄関まで」**と**思っているのです**□□

□am 05:30 □子供に送られて「バスセンター」へ、そして、高速バスで福岡空港へと向かったのです。良く晴れていて穏やかな朝 am 06:30 頃 真っ赤な朝陽が昇ってきた。

予定通り am 07:40 福岡空港国際線ターミナルに到着、直ぐに、シャトルバスで、国内線ターミナルへと移動すたんです。



そしてチェック

クインをしてスーツケースを預け、レストランに入ります。



朝食を終え

た後は、インターネットの環境が整っているラウンジで、お茶をしながらブログのチェック。 搭乗したのは am 09:40 機内は満席のようです。

福岡からの空路は (JTA 053便) で 09:55 発 沖縄 那覇空港行きである 飛行時間はおよそ1時間35分の予定 那覇のお天気は曇 気温は22 とのアナウンスがあった

am 11:45 那覇空港に着陸した。

う~ん ?? なるほど暖かい !! ... 薄いシャツ一枚で丁度いい感じです



今回、私たちが選んだツアーは、飛行機とホテルとレンタカーがパックされた「4日間のフリープラン」です。この空港で、レンタカーを受け取ることになっています。

□受付の場所を探して行くと、見たこともない大行列で、混雑が起きています。

そこが、レンタカー各社へと行く「送迎バスの出発プラットフォーム」だったのです□□

私たちの予約は「トヨタレンタカー」..... 随分と長い時間が経過して、やっと「トヨタレンタカー那覇空港店」へ案内されたんです。



私たちがこの事務所に入った頃は、**ここでも大混雑が起きていましたよ。** そんな中、レンタルの書類手続きをして、暫く待たされたあとやっと車に案内され、そこで簡単な取り扱いの説明を受ける。取りあえず「**美ら海水族館**」をナビの目的地に**セットして、公道に出たんです**□



初めて走る

沖縄の道 ... 今どこを、どの方向に向かって走っているのか??

.... さっぱり分かりません。

そうしている内に、いつの間にか高速道路にのっていることが分かったんです□



そこで初め

て、私たちが走っている方向が分かりー安心 ...。

□□**昼食がまだだったよね**」そう話していると、**PA□中城**」が現れたので、入りました。

レストハウスの入口に、**そば処「玉家」**の旗が立っています。



沖縄といえ

ば**「ソーキそば」**です。

□**具材に「三枚肉」すなわち「豚ばら肉」を始め、かまぼこ・ネギなどが入っているもの**を指すんだそうで、**沖縄県民にはこのそば好きが多いと聞きます。**

□**せいじゃとばかり、名物の「ソーキそば」を注文したのはよかったけれど、私たち**

には口に合いません□□お店によって「味」がまちまちなのも「ソーキそば」の特徴だとか□

□私たちは、そばに付いてきた「お稲荷さん」だけを食べて昼食としたものです□

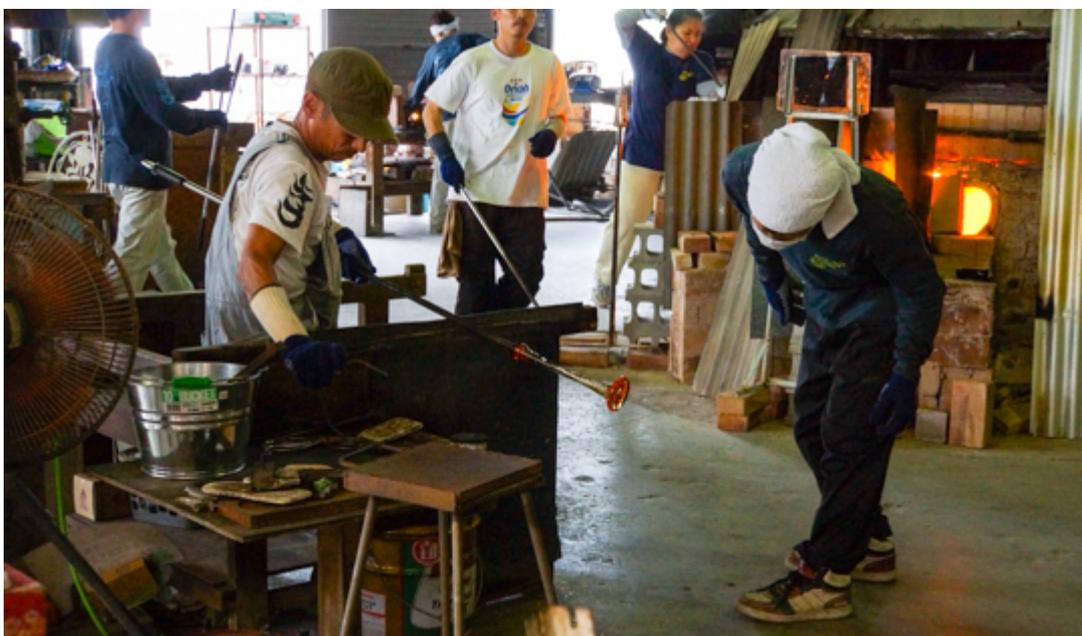
再び、高速道路を北の終点まで走り、一般道で、さらに北西へと走ります。

するとその途中に「森のガラス工房」が現れたので、ここで見学と小休憩をとることにしたんです。 その横には「琉球窯」もあります。



沖縄のガラ

ス製造の歴史は、明治の中期から始まったと聞いています。 本格的な琉球ガラス製造は戦後からで、コーラやビール瓶などの空瓶を再生するということに始まって、今は、沖縄独自のガラス文化が誕生したという訳です□



次に訪れた

のは「琉球窯」です。 首里城の正殿をイメージした外観になっています。



ここには、
沖縄全土から集めたシーサーや沖縄の焼き物が展示されていて、それを購入ができると聞きました□



このシーサーにも、製法上、色んな物があるんですね。 その一つが「陶器シーサー」です。それに「漆喰(しっくい)シーサー」があります。 漆喰で作られたシーサーに、絵の具でカラフルに絵付けをするというものです。
□シーサーの原点は、沖縄漆喰と琉球瓦を砕いた破片とで、シーサーを作ると言われています。 □この作り方は、大陸より伝来し数百年続いているそうで、琉球瓦職人が伝える伝統の技の一つだそうです□



義母から頼まれていた「シーサー」を買い求めたのは良いけれど、とても持って帰るのには大変です。なので、この店から宅配を頼んだものです。今は、国内外を問わず、宅配の物流が進んでいて、安く・早く届けられるのはいい時代ですね□

ここから、さらに北西の「美ら海水族館」を訪れる予定でした。そこに行くまでの所要時間を、地元の方に聞いてみると...片道、車で40分ほどはかかるとおっしゃる□

□そうなんと、那覇市内のホテルに戻るの時刻は夜になりそうです。□

□知らない土地で、しかも夜にドライブするのは危険だと諦めました□

そこで、今晚の宿泊ホテルへと引き返す途中に「琉球村」があります。「美ら海水族館」は、以前 ツアーで訪れたことがあるので今回はパス 今日の最後の観光を「琉球村」に決めて一般道を南下して行きます。ナビが案内する通りに走ると「琉球村」に到着です。





□村内に入ると、

昔ながらの赤瓦の屋敷があり、時間がゆっくりと過ぎている感じです□

□また、どこからともなく、サンシンや太鼓の音が聞こえてきて、タイムスリップしたかのように感じさせられます□



下の写真の

建物の中には、1990年頃に、那覇大綱挽きで使用された時の大綱を飾っているそうです。 **那覇では、こうした大綱が毎年作られるそうで、キネスブック認定の世界一の大綱らしいですよ**□



村民の皆さんは親切で、気軽に話ができ、訪れたお客さんを楽しませてくれそうです。



□それぞれの古民家では、三線の体験ができたり、オバアと話ができたりと、昔の沖縄を気軽に体験できるそうですよ。



製糖場では、実際に水牛を使い、昔の製糖風景など貴重なものを見ることができます。



水牛が働く、昔ながらの製糖風景らしいです□

上の写真は、

□中央の砂糖車で**キビを絞り**、その絞り汁を5時間ほどかけて**アクを抜きながら煮つ**



め、次に石灰を入れて大鍋で炊き□**冷まし**
だそうです□

たら出来上がり

□**村内の家屋群は国の有形文化財だそうです**□

園内に一歩足を踏み入れると、そこには昔懐かしい沖縄の姿があると感じます。

そして、琉球の文化 芸能 自然を、まるごと体験できるテーマパークとなっています。 また、1日2回開催の「**沖縄風パレード・道ジュネー**」では、沖縄の伝統芸能が、**琉球舞踊**や**エイサー**をはじめ、迫力満点の**獅子舞**が堪能できます。



この「**エイサー**」

は、旧盆（旧暦7月15日）にかけて、沖縄各地域の青年会が、各家々を周り、先祖が**無事に天に帰れるように**、また、家内安全、健康を祈願して、太鼓をもつ踊り手が、三線弾きの囃子に合わせて踊ります□



この村の奥に、美味しそうな泡盛の「古酒」を売る店がありました。つい衝動的に買ってしまったものですが ... 旅行から帰って飲んでみると、**実に美味しいものでした**□

□

こうして琉球村を楽しんだ後、一般道を那覇市内に向けて走ります。

□**嘉手納基地**の横を延々と走る道路 ... 夕刻の退社の時間帯ともあって、ホテルまでの道のりでは、何度も大渋滞の中に入り込んだものです。

今日から 3 連泊する予定のホテルの駐車場に入ったのは、夕日が沈まんとしている 6 時 20 分ころでしたね。

チェックインを済ませ、部屋に案内された。

□**窓から港が目の前で、眺めが最高です。部屋も綺麗で広いです。**



取りあえず夕食をとりたくいと、このホテルの8階のレストランへと出掛けました。





そして食事

が終わったのは9時を過ぎていました。

そしてこの同じ8階にある「スパ」に行ったんですね。すると、脱衣所も浴場も綺麗で、サウナなどの設備も十分に気持ちいいです。

私の他に誰もいない...まるで貸し切り風呂です。今日一日の疲れが癒されたものでした。

□pm 10:00 部屋に戻りました。

ホテルの名前は「沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ」です。

今日からこのホテルに3連泊です。

□ご覧下さいまして、ありがとうございました。

次の「第2話」でまた...お逢いしましょう!!